

会 議 録

1 会議名

令和6年度第9回吉川区地域協議会

2 会長挨拶

3 議題（公開・非公開の別）

・報告事項（公開）

（1）会長報告

（2）委員報告

（3）事務局報告

・自主的な審議（公開）

（1）自主的審議事項「消火栓使用の在り方と有効活用について」

（2）自主的審議事項「吉川区における若者の移住定住につながる魅力的な子育て支援策について」

・その他（公開）

4 開催日時

令和7年2月20日（木）午後6時30分から午後8時50分まで

5 開催場所

吉川コミュニティプラザ 3階 大会議室

6 傍聴人の数

1人

7 非公開の理由

なし

8 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

・委 員：上野委員、薄波副会長、大滝委員、斉藤委員、関澤委員、田邊委員
新部委員、橋爪委員、武藤委員、山岸会長

・事務局：吉川区総合事務所 風間所長、山本次長、渡邊市民生活・福祉グループ
長（教育・文化グループ長兼務）、平原総務・地域振興グループ班長
熊木総務・地域振興グループ副主幹

9 発言の内容（要旨）

【山本次長】

- ・会議の開会を宣言
- ・委員 10 人の出席を報告
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第 8 条第 2 項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告
- ・会議録の確認：田邊委員

【山岸会長】

- ・挨拶

【山本次長】

- ・議長の選出について、上越市地域自治区の設置に関する条例第 8 条第 1 項の規定により山岸会長から議長を務めていただく。

【山岸会長】

- ・会長報告はない。次に委員報告をお願いします。

【橋爪委員】

（柿崎病院だよりについて説明）

【山岸会長】

- ・ほかにないか。
- （声なし）
- ・なければ、事務局報告をお願いします。

【山本次長】

- ・事務局報告は 3 点ある。最初に、大雪により 2 月 11 日に吉川区に災害救助法が適用された。このことについて、風間所長より説明する。

【風間所長】

（大雪による災害救助法適用について説明）

【山岸会長】

- ・意見、質問はないか。
- （声なし）

【山本次長】

（資料 No. 1 により説明）

【山岸会長】

- ・この件については、後ほど自主的審議事項の中でやりたいと思うので、次に移る。

【山本次長】

- ・次に、地域独自の予算事業の一覧について、熊木副主幹より説明する。

【熊木副主幹】

(資料 No. 2 により説明)

【山岸会長】

- ・質問、意見はないか。
- ・観光協会の事業について質問する。道の駅の事業について、今回どのような目論見があるのか。

【熊木副主幹】

- ・提案の内容について説明する。「吉川道の駅まつり」を実施する予定で、ゆったり郷、よしかわ杜氏の郷、四季菜の郷、くつろぎ長屋等と協力し、地域内外の人が集い、食やライブを楽しむことができる「道の駅まつり」を企画するものである。ゲストを招きお祭りを開くというものである。

【山岸会長】

- ・これと別枠になるのか、市の方で道の駅に対して予算を立ててくれていると思うが、決まらなと見せられないということで聞いていないが、前期の時に当区アンケート調査でこういのはどうだという意見が出ている。例えば緑地の活用や東屋のところなど、トイレは改善されたが、そういう部分の予算付けについて、この時点で話せないと言われればそれまでだが、せつかくアンケートを取って区民の皆さんの希望が出ていたにもかかわらず、それが一切見えてこない。4 月以降にならないと、事務局としては、一切公開できないということか。

【山本次長】

- ・独自予算の内容については、地域協議会の皆さんにお示しするようにと資料が来たので報告した。吉川区総合事務所が要求した内容であれば話せる範囲で説明したいと思うが、他部署で要求した事業等については私たちもまだ詳しく承知していないところもある。議会議決後に詳細が分かるので、吉川区内で行われる事業については、後日報告させていただきたい。

【山岸会長】

- ・それはそれでお願いしたいと思うが、なぜ私があえて申したかと言うと、ほかの区

では、地域独自の予算について言うと裁量権は地域協議会に無くなったが、それぞれの事業に対して地域協議会が深く関わっていると聞いている。例えば頸城区で大池、小池の事業については委員がそれぞれの団体に入っていて要望事業に関して意見を述べたり把握している。市の事業として道の駅事業を出せないのかと思う。一昨年の地域独自の予算には市の事業としていくつも入っていた。自己資金の持ち出しなしでやってきている。そのようなことができないのかと思う。我々の方で吉川区としては地域独自の予算には関わらないで、直接要望団体と事務局でやり取りをお願いするという楽な方向にしてしまった。せっかくアンケート調査をしたのに、その回答を生かすようにもっと深く地域協議会が関わらなくて良かったのか、せっかくこういう補助事業があるのに、そこに我々地域協議会が関わらなくて良かったのかと今さらながら思う。発表できる時期になったら、私たちに示していただきたい。

- ・ほかに何かないか。事務局、ほかにあるか。

【山本次長】

- ・ない。

【山岸会長】

- ・次に自主的な審議に移る。まず、最初に「消火栓使用の在り方と有効活用について」であるが、先ほど事務局から市の回答の報告があった。以前、危機管理課長から来てもらいやり取りをした。残念ながらこういう回答しか出せないものなのか。区民の生命財産について机の上で物事を決めて、危ないからと言っているが、危険を承知でも近所の災害や火災があれば手を出す。それが地域と言うものだ。私はそう思う。家族愛、隣人愛、町内会の愛、区の愛、郷土愛である。これごく当たり前の日本人として当たり前の考えからくるもので、防火衣とか言っているが、誰が裸に近い状態で火の中に飛び込むか。そうではない。消火器、バケツとかという前の回答があったが、これを超えて火事になって、通報はするであろうが、消防車が来るまでの5分、10分と言うのは非常に大事な時間だ。初動が一番大事である。その時バケツリレーで止めておけと言うこと自体、市は人の財産を何と思っているのか。市の職務ではないのか。市民の生命財産をもっと大事にしてほしい。せっかく市民がやれることはやりたいと言っているにもかかわらず、そういうことをさせない状況が相変わらずある。まず、この回答について皆さんの意見、質問も含めて一人ずつ聞く。関澤委員、お願いします。

【関澤委員】

- ・一般市民は訓練しなければ危険で、専門的な教育や講習を受けた人でないと消火栓の扱いについてはできないという、頭から言っているような回答である。一般の人が消火栓を使って助かった事例もあると思う。心配してくれるのは良いが、市民が教育を受けて使用できるように行政にやってもらえれば良いと思う。

【斉藤委員】

- ・私の家の付近は家と家の間が大分空いているので、仮に火事が起きたとしてもすぐに延焼する危険はない。ただ、薄波副会長が言われたように住宅密集地で火事が起きた場合に、延焼を防ぐ初期消火を考えると、住宅密集地だけでもやった方が良いと思う。上越市で高田の仲町や本町通りなどの密集地を考えた場合に、大規模な火事になってしまうということに関しては話が違う方向になってしまうかもしれないが、原之町というか住宅密集地だけでもせめて配備されれば、これに越したことはない。延焼も防げるし、命も守ることができるのかと思う。

【大滝委員】

- ・この回答に関しては、こんな感じなのかと思う。昔から住民が消防団と一緒にあって消火栓の使用方法について私も消防団 OB としてやったことがある。本当はできれば一番良いが、なかなか今、情勢も変わってきているし若い人たちもいない中で消防団員も大変な思いをしてやっているのではないかと思う。とはいえ火事なのにそこで消火栓が使えないのは歯がゆい面がある。回答は回答で、これで良いと思う。斉藤委員が言ったように部分的にやるとか、これはこれで止めないで協議会の中でどういった方向が良いのかを市の方に投げかけて極力初期消火が効果的になるように皆さんと考えて行ければと思う。回答的にはそうだろうと思う。

【上野委員】

- ・吉川区の一住民であり、地域協議委員であり、消防団の吉川方面隊長であり、耳の痛い話である。何とも言えない。方面隊長としては、これは致し方ないのかと思う。

【薄波副会長】

- ・この回答は市として全体的な見地で言えばこういう回答になるのは仕方がないのかなという気がする。ただ、あまりにも事なかれ主義的な回答になっている感じがする。先ほど斉藤委員が言われたように地域性がある。住宅密集地であれば人もいる。家が1軒ポツンとある状態であれば、その家の人が逃げるのが精いっぱい、周りの人が駆けつけてくれることはできない。そういうところは必要ないが、住宅密

集地であれば隣近所大勢いるので、そういう人たちが応援に来て初期消火を手伝ってもらえるということである。画一的にダメと言うのではなく、条件を提示して利用可能な状態にして行くのが良いではと思う。実際、糸魚川市では市民が消火活動を行って消したという事例があったと聞いている。それができているのに、なぜ上越市はできないのかというのも疑問なところである。ここにある「安全性の確保が困難なことから」というのは、どんなところが安全性確保が困難なのかと言うのもある。「迅速な出動命令を出せる体制を整えている。」というが実際、消防団員はもうなり手がいない。命令を出したところで、集まるかどうかわからない。集まらなかったら消防車も出られない。そしてどんどん延焼して行くという状態になりかねない訳だから、そういう状態を想定してこういう形の消火方法を確保しておく必要があると思う。市全体としてはそうかもしれないが、地域性があるのでそういうところでまだまだこれから先、要望を出していくべきかと思う。

【田邊委員】

- ・私もこの回答になってくるかなと思っている。自分の家がもし燃えてしまったら、すぐにでも消してほしいと皆さん思われるのではないか。例えば消火栓が使えないのであれば、それに代わる何か、例えば消防小屋に消火器を何十本も置いてもらうとか、何か女性や高齢者でも何かできるものが検討されるのであれば良いのではないかと思う。

【新部委員】

- ・「重大な人身事故が発生する危険性が高い」というのは、そういう事例が全国にあったのかどうか。市としては、組織と言うのは皆そうで、市の対応が不味かったとなると損害賠償なり大変なことになるので、それが危機管理課としては嫌なので、手を出さないでくれと言うのが建て前である。ただ、過去の歴史から言うと合併前に吉川みたいに使っているところもあるし、その時点で手を出さないでくれとなった時もあったみたいで、高田などはあれだけ火事がたくさんあって延焼してもこういう風に言う人がいないのではないか。吉川だけ良いというのは、市の条例で作れない。ここまで市がいうのは、市の条例があるのか、損害賠償を請求されたら困るからではないか。確かにここに書いてあるものは、重大な人身事故が発生する危険性が高いというのは、それが怖くて手を出さないでくれと言うことになっているのであって出火した時にどう動くのかというのはあまり考えていない。「官民一体で」と書いてあるが官だけで民は手を出さないでほしいという書き方である。防災訓練は

しても良いが、いざ出火したら手を出すなと言う考えではないか。とりあえず初期消火の重要性というのは確かにあると思うので、その立場になったらやはり手を出してしまうというのは確かだと思う。手を出したときに怖いのは何かと言うと、極端に言うとも亡くなったりした時に市が損害賠償なり何なりを請求される可能性があるというのが、一番怖いのではないか。その時の対応まで考えてやっているのだと思うが、糸魚川の対応は危険性があつたとしても防火をみんなでやれるようにした。いざ糸魚川の大火みたいなものを経験すると 180 度変わってこういう話に変わってくる可能性がある。そういう大火がなければ、上越市はこのままの体制で行くつもりなのかと言うのは一つの投げかけである。結局は市民の総意である。糸魚川市は総意がそこで変わったはずである。上越の人間は危機感を持っている人もいるが、ほとんどの人は持っていない。どこに問題があるかと言うと上越市の体制にも問題はある。それからもう一つ、屋外の市が所有する消防資機材の維持管理は必要と書いてあるが、すべての維持管理を市がやっているかと言うと、ホースは買ってくれない。それで維持管理することになっているかと思うと消火栓があつて消防団が来ると消防団のホースを使うから（ホースの維持管理は）やらないと言えばそうなのだが、ここで定期点検なり適切な維持管理はすべて上越市がやっていると書いてあるが、そうでもないような気がする。それも少しこの回答が矛盾しているところである。あと、消火栓は危ないと言いながら、屋内消火栓と屋外消火栓はどこが違うのか。屋内消火栓はみんなが使う。屋外消火栓と屋内消火栓はそんなに違うのか。屋内消火栓の場合は、建物所有者が使う。では、屋外にあつたら屋外はダメだというのはいかがか。結局は消火栓と言うのは誰でも使えると思う。

【橋爪委員】

- ・間違ったら指摘していただきたいが、意見書を出すときに初期消火として出したのではないか。その効果として消火栓を使わせていただきたいというような文面があつたと思う。一般的に初期消火というのは、私の意識では家にある消火器でやって、火が大きくなりえない程度を初期消火と考えていたが、消火栓を使つての初期消火と言う表現はあまり聞いたことがない。市からの回答もこういう感覚になっているのかと気がした。それと私は民生委員をしているが、頸北消防署から高田の 7 軒、8 軒燃えた時に、そのすぐ後に吉川にも密集住宅があるということで、原之町とか長峰団地を中心に民生委員と一緒に高齢者宅を回って火災に十分注意してくださいと注意を促した。消防署もそういう密集地とかの火災を気にしている。そういう所で

は我々が言うような消火栓の使用についての声が上がっても不思議ではないのかと思う。

【武藤委員】

- ・この回答については大体予想のとおりである。今後、「住宅密集地に限り」を付けて意見書を再提出してもまた断られる。どこまで行っても平行線という気がする。質問だが、使った人が怪我をすとかではなく、使った人が罰せられることはあるのか。

【山岸会長】

- ・それを聞きたいのか。後ほど答えてもらう。ほかにないか。それでは、委員から 2、3 行政の対応についての質問があったかと思う。答えられる範囲で事務局に願います。

【山本次長】

- ・間違っているところがあるかもしれないが、まず武藤委員の使った場合に罰せられるのかということについては、ないと思う。ここに書いてあるのは上越市の方針ということなので、それに対して罰せられる扱いはないと考える。もうひとつの屋内消火栓については、基本は消防の設備基準で消火器なり、大きな建物等では屋内消火栓の設置が必要となってくると思われる。その使用については、建物の管理者等の下での消火訓練等をする中で使用するものだと思う。

【山岸会長】

- ・今の回答についていかがか。

【新部委員】

- ・消火栓を使ってはいけないという書き方をしているが。

【山本次長】

- ・ここでの消火栓は屋内消火栓ではなく市が屋外に設置している消火栓である。

【山岸会長】

- ・答えられる範囲でということで承知いただきたい。私たちは意見書にも書いた通り吉川地区に限って言っているのであって、市全体とは意見書には謳っていない。吉川区の中の住宅密集地があるので、或いは常備消防が到着するまでの間の対応として使わせてほしいという意見書である。一つ聞きたいと思っているのは、吉川町の時に消火栓の配備と同時に格納箱にホースと筒先が入っていた。格納箱の中に 20m ホースが 3 本、普通の筒先が入っていた。それを使いながら町内会にもよるが、消

防団と訓練をしていた。設置はしたが、あとは町内会で面倒を見るということだが、消防団は積載車に載っているホースを使うと言っている。この市の回答は消防車が来ることが大前提になっている。たまたま消防団員が現場にいて消火栓があって格納箱があって、そのホースを使って近所の人に手伝ってもらった場合、私は消防車が到着するまでと言っている。なぜ今これを言ったかと言うと、格納していても全然使わないと劣化して必ず穴が開く。その点検は誰がやるのか。上野委員、各町内会に設置してあるホース格納箱の中のホースの点検などは業務の点検外か。

【上野委員】

- ・はい。

【山岸会長】

- ・おそらく吉川区内の町内会は、ほぼ同じ対応していると思うが、消防団に市から払われる費用弁償は、手当のほかに各町内会が独自で消防団に上乘せして危険を伴うので消防費と言うことで出していると思う。その中で、格納箱の資機材の点検とか消火栓の開栓も含めてやるべきだ。市はたぶん費用弁償が発生するので、市の方から指示が出せないということなのだろうが、本当に郷土愛を持っているのかと私は問いたくなる。当たり前のことをするのに命令がなければやらない、やれないということ自体間違っている。だから、町内会で消防費を捻出している訳であるが、私が消防団員だった頃には、火の元点検をしていた。独居老人世帯の安否確認も含めて火の元点検をやった。以前はかまどとかがあって煙突が軒下を通して外に出ていて黒ずんで炭化していれば「危ないよ。火が出るかもしれない。」と指導したものである。今、そういう指示もしていないと思う。こういうのは各町内会でよく消防団と話し合ってお願ひしないといけないと思うが、今は本部の指示がないと動けないという答えで終わっている。それもどうなのかと思う。我々が求めているのは市全域に対してこういうことを云々と言うことではなくて、きめ細やかな場所、場所によった対応を取らせるべきではないか。先ほど補償とかの話をされたが、多分そういう事案があったのではないか。消火栓を使う云々というのであれば初期消火では収まらない火になっている。常備消防が来るまでの間、或いは消防団が揃うまで手をこまねているのかというその部分で自己責任である。自己責任で消火活動をしたいということである。せつかくあるものを使わせない、使って怪我をしたら責任取れとか言うのではないかというところに行っているのではないかと捉えてしまう。その辺を行政に襟を正してもらわないといけない。どうも内向きの補償とかば

かりを気にしている。さらに言えば、私は吉川区ばかりではなく、ほかの区の人にも声をかけ始めている。少なくとも複数の区からも同じような意見が出ていると聞いている。意見書として出しているのは吉川だけだが、同じ意見を持っている区はたくさんある。連携を取ってこれから危機管理課に乗り込んでいきたい。私はそう思っているが、皆さんの方で何かあるか。

【新部委員】

- ・山岸会長が言われている補償に上越市が後ろ向きなのはやむを得ないと思う。上越市としては、それは一番怖い話であって、人が死んだとかいう話になったら身も蓋もないということは、当然想定すると思う。だから、それはしょうがないと思う。それを以て言うのではなく、どちらになっても市民総意を確認すべきだ。何も判断しないで今のままやって、糸魚川みたいに大火が起きた時に、高田の大火が起きた時に、どう考えるかと言うのを危機管理課が言うとおりになっていて良いのかと思う。それは、市民が考えることである。それから、2行目に「さらには消火資機材の定期点検など適切な維持管理は上越市がやる。」と書いてある。しかし、その下の方に「加えて、仮に火災現場で40ミリ口径の消防ホースや無反動の管鎗を使用した場合であっても、安全性の確保が困難なことから、一般市民等による消火活動のためにこれらの資機材を配備する考えはありません。」というのは矛盾している。

【山岸会長】

- ・それは、たぶん市が管轄するものに関しての部分だと思う。消火栓のところに設置してある格納箱は町内会で維持管理することになっている。維持と言っても点検はどうするのか。消火栓を開けない。消防団でなければポンプを使うなど言うことは、消防団と一緒にやるのである。吉川では、今までやってきている。そういうことの継続性も含めてさせてもらわなければいけない。大火になった時にここで収まったものを収められなかった。その責任は誰が取るのか。「消防署が来るのが遅れたから仕方ないではないか。」「あるものを使わせないお前たちのせいではないのか。」などの事例が出たらどうするのか。私は先にそれを聞きたい。こういう文書が来るのは想定内であって自己責任でやる分にはそれを止めることはできないとは言えない。先日、危機管理課長が来て話をした時も、これで全部やられると通り一辺で困る。もっと細やかな対応が必要ではないか。万が一があっても自己責任でお願いするくらい言われても仕方ない。そこまで言わないとだめなのか。ほかに意見ないか。

【斉藤委員】

- ・市の回答の中ほどに「40 ミリ口径の消防ホースや無反動の管鎗を使用した場合であっても、資機材を配備する考えはない。」ということだが、仮に今配備してあるものが町内で維持管理して行く上で、町内会負担で取り替えると言った場合に、40 ミリホースと無反動の管鎗を装備するということに関して市はどのようなかと言う考えを聞きたい。替えるときにまた使えないというのは。

【山岸会長】

- ・町内会で 40 ミリホースを配備した場合、どうするのか。

【斉藤委員】

- ・ただホースを持った人が怪我をした場合、自己責任でという形になる。

【新部委員】

- ・この市の回答は、自己責任にはならなくて重大な人身事故とか危険性が高くて、なおかつ発生した時には市が責任を負わなくてはいけないというのが想定である。市が何億円も払わなくてはいけないのが怖くてこういう書き方をする。それが自己責任で済むようであれば良い。考え方とすれば、40 ミリホースと格納箱は町内会が管理しているのであって、我々は知らない、資材も提供していない訳だから、事故が起きても市の責任ではないと言って逃げられるのであれば市は良い。市としては、そこまで言えない。延焼を防ぐよりも、市はそこで怪我される方が怖い。それは、組織としてはわかるような気がするが、それで良いのか。

【山岸会長】

- ・新部委員は、随分市のほうを理解されているようだ。私たちもそういう意図があるのを読み取れるが、そうではない。消防団は元々火消しである。今は火災だけでなく、いろいろな災害も含めて消防団業務はあるが、万が一があるのは、ある程度覚悟が必要だ。それで保険を掛ける。町内会も実はボランティア保険というのがあって万が一を考えれば色々な手立ては組めなくはない。そこまで言わないと市はダメなのかと言う話になるが、それ以前に公費を使って格納箱等を設置した訳だが、あるものを使えないという状況はまずいと思う。何でも消防団でなければだめだ、消防署員でなければだめだということであると、あるのに使えないという状況が問題である。だったらどうしたら良いか。自己責任において最大限であるが、危険度の最小限のやり方を考えようというのが我々の立場ではないか。市は、そこでやっていたのであれば、せつかくある大事な施設を使えないような状況があるということが問題である。どうしたら使えるようになるかという部分を我々は追及しなければ

いけないし、要望して行かなければならないと私は思う。いかがか。

【橋爪委員】

- ・新部さんが言われているのは、市はそういうことでこの文書になっているという趣旨であって擁護している訳ではないと思う。そういう風に言われるとなかなか意見を言えなくなる。

【山岸会長】

- ・そういう意図ではない。たぶん皆さんはこの回答書が想定通りということは、皆さんは分かっている範囲である。市はどうしてこういう文書になるというのは、危機管理課長と話した時も大方分かっていた。じゃあ仕方がないではない。どうしたら使えるようになるのかということを我々はやっている訳である。

【斉藤委員】

- ・私も現役消防団員であるが、勤めは吉川区内ではない。勤め先から火事になった時には30分位かかる。燃えてから30分位で全焼となる。その時に私以外どうかと言うと、皆区内に勤めていない。そうした時にできる人がやれば一番良いと思う。ただ、先ほど新部委員が言ったとおり危険に対する補償がとなると言うことがなくなる。そこで糸魚川市がどういう風な形で組み込んでいるのか、それとも責任を持たないでやっているのか、その辺が気になる。ただ、この回答はこうだろうなと思う。

【山岸会長】

- ・上越市が糸魚川市を研究していないのが問題だと思う。同じ上越地域の市で一気に変わったわけである。どうしてそういう風にして補償も含めて、そういうことは行政同士で我々がこうして意見書を出した時点でしなければいけない。それをやらないで置いて、今まで通りの、想定通りの言葉しか返せないということ自体が私は問題だと思う。しっかり勉強すべきだ。糸魚川市はどうしてこういう風に変わったのか、これを許可してこういう配慮をしたということを上越市も勉強すべきで、危機管理課自体が糸魚川市に行って勉強してくるべきだ。それも含めて今度意見書に入れるか。

【新部委員】

- ・勉強しろとか、そういうのを意見書に入れる話ではない。危機管理課がなっていないとか、けしからんとかそういう話ではない。上越市の行政を責めるために言っている訳ではなく、糸魚川市があの大火を経験して市民の総意でああいう風な立場に

変えたはずである。前はそんなでなかったかもしれない。上越市と同じようなことをやっていたのかわからないが、糸魚川市があの大火で人口が減って、密集地の街中のほとんどが空いて、戻ってくる人もいなくなってという状況でどう思っているのかを少し考えないといけない。上越市の中で高田とか原之町とか密集地とあと過疎地で初期消火を考えると、過疎地は過疎地で人がいないから燃え始めたら誰もいない時に、そういう時に限って消防車はすぐに来るように出動命令が出せる体制を整えておくというが、結局は遅くなってしまう。柿崎の消防署の人が吉川の奥まで行くとなると大分かかるので、それで雪が降っていれば、またそれも大変であるし、その時にも何もしないで待っているのかという話になると、結局そういう風なケースバイケースを想定しているのかと言われると、何を考えているのかと思うが、そこを「けしからん」とか「仕事していない」とか言うのではない。糸魚川市があれだけ変わっているから、上越市が正しくて、糸魚川市がおかしいということではなくて、やり方が違うのはなぜなのかと思う。考えると糸魚川市みたいな方向性も取ることができるのではないかと思う。ただその方向性を取るためには危機管理課が云々というのではなく、どこかの意見をまとめなくてはいけない。そのままで良いという人もいると思うし、いざ糸魚川みたいな大火が起きた時には、かなり厳しい。後悔する。そこが投げかけの発端なのではないかと思う。

【山岸会長】

- ・ほかの意見はないか。

【薄波副会長】

- ・新部委員が言われたように、まずは糸魚川市の状況を我々も少し調べて、どういう経緯でそうなったのか、大火が原因だとはわかるが。その大火が原因だが行政と民が一緒になって前へ進もうという姿があって形になったと思う。今、上越市の考え方と糸魚川市の考え方が全く違う訳で、大火がきっかけになったとは言いながらも何かあってからでは困る。何かあってから変わったではなくて、何かある前にできることをやって行かないといけない。そのためには、今良い事例が糸魚川市にあるので、我々もそれを参考にしてあるべき方向に行くような進め方をしていかないと地域性があるのでそれを考慮した形で区の消防団の活動もそうだが、一般の市民の活動、自主防災組織の活動など、全体を考えずもっともよい方法に進めて行くのが良いと思う。先ほど斉藤委員が30分もあれば全焼に近いと言ったが、柿崎から山の方まで30分かかったら家がなくなる訳なので、そうなった時には、代替手段として

近くのところから駆けつけるとか、或いは色々な形でそれを補填するような仕組み作りをしたら色々な方法があると思う。別に消火栓に 40 ミリのホースを配備しなくても、代わりに女性や子どもでもできるような簡易な消火弾みたいなものを投げつけられれば良いとか、消火器を 10 本くらい用意しておくとか。必ず消火栓に 40 ミリホースが必要と言うことではなくて何かあった時に代替できるようなものを何か考えておく必要があると思う。消火栓を使うなと言っているが、使わなければ何か起きた時にどういうことが代替として市が準備できるかというところも考えてもらえればと思う。いずれにしても糸魚川市の状況をもう少し私も調べてみたい。まだこの件は続くと思うので皆さんの協力をお願いします。

【山岸会長】

・「何か起きてからでは」という部分が一番大事である。確かに今のままで良いという人もいると思うが、ただ今のままでは何かあったらどうするのか、誰が責任取るのかと言った部分では、市は使わせないようにこういった文書を出しているのではないかと言いたくなる。行政は市民の財産・生命を守るという重大な業務を負っている。糸魚川市に何かがあって変わっているのに、そこにたぶん市は行ってないはずだ。行っていれば、変わっている向きが出るはずだ。それは人の家、うちはまだ起きていないから、起きてからとなる。その辺は襟を正してもらいたい。消防団を含めて消防団員は手当をもらうが、消防服を着て業務に当たった時には特別職になるが、普段は一般人である。一般市民が怪我や、万が一があるのも含んで対応している訳である。それは、自分の地域は自分で守るという崇高な使命を持っているから、話し合いながら意思を疎通していたつもりだ。そういうのを OB は持っている。やれる範囲のことはしたいと思うし、自分の地域は自分で守るのだという人もいることを大事に考えてもらいたい。私は思う。まずは、上越市の危機管理課が糸魚川市に行って勉強してくるべきだと。もし行っていたら、こういう通り一辺倒の回答にはならないと思う。今後とも、これについては仕方なかったとは思いたくない。他の区の協議会とも連携取りながらやって行きたいと思っている。実は、市議会の方々にも動いてもらっている。この意見書を見て吉川区の地域協議会と意見交換したいと話ももらっている。また、その辺を詰めていきたい。市議会も動いてもらえるように私は認識している。危機管理課の消火栓に対する認識、これについては改めてもらわなければならないと思う。もちろん、全域にとは考えていない。もっと細やかな対応をなさいと。行政はここにやって、ここにやらないということがで

きない。たいらと言いながら実は危険個所を作っている。密集地に何で危険な状況をそのままにしているのか。通り一辺倒である。もっと細やかな対応を市に求めていきたい。他にいかがか。なければ、これから少なくとも13区の地域協議会の皆さんにはこの話をして、連携を取ってもらいたいとお願いするつもりでいる。全く同じことを言えとは言わないが、とにかく細やかな対応を取れるような行政の対応を求めていきたい。市議会とは連絡が取れ次第皆さんに話すので、できればうちの協議会だけでなくほかの協議会も参加したいということであれば、市議会議員と話しながら市の対応の改善を求めていきたい。この件に関しては、今日のところは終わりとする。

- ・では、次に(2)自主的審議事項「若者の移住定住につながる魅力的な子育て支援策について」をお願いする。前回の会議で皆さんにやり方も含めて意見をもらいたいとお願いしてあったと思う。こんなのどうかというのがあったら、話してもらいたい。武藤委員いかがか。

【武藤委員】

- ・転入者を増やすのも良いが、まず転出者を減らすことに重きを置いた方が良い。

【橋爪委員】

- ・ほかの資料を見ると、簡単に支援というだけの策ではなかなかうまくいかない。やはり組み合わせだと思う。人が減っている中で、今いる人だけの支援だけで良いのかを考えなければならない。そのために「活性化」という言葉がそこら中で使われているが、やはりそのまちの企業があって、そこに住んでいる人が地元で金を稼げることが非常に大事なのだそうだ。確かにあれば最高だ。そうすると近場で色々なコミュニティが生まれて、そこに人が住んで色々な環境が良くなって良い方向に回るらしいが、今その方向にないのかと思う。子育て支援になるかどうかかわからないが、先ほど東屋の話があったが、そこにテントを張って夏場にバーベキューのセットを用意して一人いくらでやれるような、あそこを空けておくのはもったいないので、そういう施設を作っておけば来た人は材料を四季菜で用意するというのをやってみるのも良いのではないか。それでそこに子どもが集まって色々なコミュニケーションが生まれる。そんなことを考えた。

【新部委員】

- ・色々考えるが、この間の説明で年間5組入れば上々だと、すごく努力してやっても定住することを目的に入人というのは5組くらいで、それだって色々な支援金を

出してそれでも5組という話になって、難しい。自然減を少しでも減らす対応だけで、吉川区の人口増はこの間の説明も含めてとても無理である。そういうことを考えるのではなく、まずは住んでいる人が集まるどころとか、住んでいる人が楽しめるところを作るのが一番早いのではないか。それがなくて住んでいる人が楽しくなければ結局は魅力がない地域になっている。それが、なかなか難しいと思う。色々な人がいるので、色々なところに魅力を感じていると思う。私なんかも景色がきれいで、散歩ができる所というのは魅力がある。子どもはそんな所は、全然魅力を感じないので、子どもは子どもでまた全然魅力の感じ方が違うと思う。そういう所を、些細な施設で良いので、少しお金をかけて、少しのアイデアで何かできないかと思う。それならできそうな気がする。できそうな所から、根本は楽しいことをやるというのが一番良い。色々なことを行政に要望するというのもあるが、そうではなくて多少のお金を出しても地域の人がアイデアを出して楽しめるところを作れば良いかなと思う。

【田邊委員】

- ・私も人が集まって人数を増やすというのは難しいのではないかなと思う。子どもたちに聞くと上越はあまり楽しめたり遊べたりするところが少ないと言って、少し足を延ばして東京に行ったり県外に出たいという人が多いように見受けられる。例えば尾神にキャンプ場を考えてみるとか、ソロキャンプなどで外からちょっと楽しむために来た人がずっとではないにしても、何回か来てくれて、そこに住み着いてくれるのを考えた方が良い。子どもたちが学校に行くのにちょっと不便だという話はこの間出ていたと思うが、そういう所をもう少し巡回バスを出すとか親のサポートがなくても子どもたちが通えるようなものも考えてもらえればと思う。

【薄波委員】

- ・支援策はいろいろあると思うが、物理的な面やお金とかそういう所を設けたとしてもなかなか来てくれる方が少ないと思う。しかもこの策と言うのは時間がかかるものだと思う。何が一番大事かと言うと私はやはり魅力というところを一番大事にしたいと思う。魅力がなかったら何も始まらないという言い方は変だが、魅力があれば、一旦出て行った人も戻ってこられる。或いは魅力があれば、ここから出て行くことも減っていくだろう。魅力づくりを何かの形でやって行くのが一番良いのではないかなと思う。先ほどのバーベキューもそうだが、尾神のパラグライダーとか、ああいう景色の良い所もそうだが、魅力をもう少し吉川として発信していけるような

ものを少しずつでも良いので始めて行けば皆さんも気づくのではないかと。私は、例えば空き家を提供するとか子育て支援をするということよりも魅力づくりに力を入れて行った方が良いのかと思う。

【上野委員】

- ・私は同じ世代とか若い人に色々と聞いているが、中山間地に地域おこし協力隊とか来てその人たちが移住していたりする。その人たちにももっと若い世代がどんどん増えるようなことを聞いたりしている。まだ今は情報を仕入れている段階である。

【大滝委員】

- ・私は、薄波副会長が言ったとおり魅力がないとこの地域にいて楽しいとか、こういうのがきれいだとか、発信が少ないのではないかと。尾神にしても、区にはないが海が見えるなど、見て楽しいというのがあると思う。地域の人たちが楽しくなっていなければ、多分周りからくる人たちにも楽しくないし、人は集まらないと思う。まず、自分たちが楽しむことが第一だと思う。私も地域づくりをやっていて、やはり何一つするにしても自分たちが楽しんでいれば、周りの人たちも今度行ってみたいと思う人が出てくると思う。まず、地域の人たちが楽しむような企画をするとか、やりながら地域の魅力となるところを外部に発信していくシステムを作れば良いと思う。また、若い人たちに残ってもらうためには、働くところがなければここから出て行ってしまう。上越市内にもあるが、企業誘致というのは大変かもしれないが、工業だけでなく、ここの主たる産業は農業である。農業の中でも雇用を生めるような補助とか助成をしてもらっている部分があるが、まだまだ薄いと思う。それが、ここだけではできない部分もあるが、何か良い方法で農業に対しても雇用が生まれるような方法があれば、皆さんと勉強しながら考えて行ければと思う。私も農業に半分携わっているが、私が働きに行くところの経営者は大体40代である。ただその後、誰が継いでくれるかというのは非常に難しい。若い人たちと一緒にやりながら後継者を作っていくというのが大事だと思う。今年も一人農業を止めるから私たちに任せるといっているのが出てきている。これがもし大規模になった場合には、機械化されているから人間も少なく済むかもしれないが、米だけではなくて色々な面で農業をできる施策を考えてみればと思う。

【斉藤委員】

- ・まず、子どもの流出を一番の目的に考えて行きたい。私は現役親世代であるが、子どもの流出防止をしたい。どうするのだという話になった場合、先ほど橋爪委員も

言われたとおり、長峰と尾神、長峰はあの緑地帯をキャンプにでも、バーベキューなどに、ぜひ使いたいと思うし、周りからもそういう話が聞こえてくる。また、尾神はなぜキャンプ場が無くなったのかという話だが、あれは今どこの管理になっているのかわからないが、上越市だったら、合併したので仕方ないと思うが、ただ、あれだけ景色が良い所はすごくもったいないというのがある。私はキャンプに南葉山に行く。なぜかというと、景色が良いから。それだけ夜景を見ながら焚火炊いているのが非常に良い。尾神は場所的にも恵まれていてパラグライダーの聖地でもあって、県知事カップや全国大会が開催される場所であって、その人たちが宿泊の際にキャンプ場もあるよ、バンガローもあるよと言った時に泊まっていただけのだろうと思っている。子どもたちには地元吉川でキャンプ場もあってこういう所もあって良いよというのが、今の状況だと発信できないし、伝えられない。尾神とか長峰とか、そうなのだがバーベキューとかができればそれが魅力発信に繋がるのではないかと思う。この間、創造行政研究所から説明を受けたが、人口減少についてもその通りだと思う。ただ、ワークショップ等の開催でベテラン、若手、中堅、子どもと面白いと思って聞いていた。吉川の魅力再発見ということでは、色々なところを子どもたちにマップとして作ってもらって子どもたちに実際、吉川はこういう所があるということを再発見してもらうというのも一番の目的であるが、それを来た観光客に配布できれば、なお良いのではないかと思う。仕組み作りの話になってしまうが私の意見として回答する。

【関澤委員】

- ・自分自体がこういう所が好きだとならなければいけない。そして、この吉川のどこに魅力があるのかということ深く掘り下げて行かなければならない。この前の協議会で新部委員が言ったとおり、新井・柿崎線沿いは便利が良い。長峰温泉があり、酒蔵があり、東京吉川会の皆さんもそこで酒造りをして行くとか、あらゆる催し物をするべきと思う。やっつれ祭り、酒まつりなど、元々吉川は酒造りの元祖の醸造科が高校にあったという歴史のあるところである。それともう1点、来年度は謙信公祭100周年であるが、謙信公にまつわるお寺が吉川には多くある。これをツアーで回るなど、歴史散歩に力を入れるなどをやれば少しは活性化になるのではないかと思う。一気に人口が増えるなどということはないので。それともう1点、若い人たちを流出させないということである。それには、先ほど大滝委員が言ったとおり、もう少し雇用の場が吉川に欲しい。我々協議会委員自体も吉川は良いところだと会

った人に常に宣伝するような何か催し物などをして来てもらえる形が一番良いのではないかと思う。

【山岸会長】

- ・皆さんの意見を伺った。魅力的な部分を広げようということで、移住者を増やすということよりも、出る人を減らした方が良い。止めるよう努力するべきでしょうという結論的な部分だったと思う。なかなか吉川に移り住んでいただくには、魅力という部分と来たら得をするということをししないと移住者が増えることは、なかなかないと思う。ましてや企業を招くことは難しいと思う。皆さんが情報収集を含めて、例えば若い世代の声を聞く、子育て世代から、子どもたちの声を聞くというのはいかがか。先ほど斉藤委員の話の部分は青少年健全育成会議でもやっていて、ある程度は、発表会で聞いている。我々の中だけでこうして話しているだけで済む訳ではない。生の声を聞く場面を作った方が良いと思っているが、いかがか。我々が直接声をかけて寄ってもらうというのは難しいが、例えば小学校、中学校とその保護者会と繋ぎを作って意見交換をさせてもらえないかと考えている。ワークショップまではできるかどうかはともかく、現に出て行かないように、これから子どもが育っていく環境をどうやったら整えられるか等々も含めて意見を伺う機会を設けることについてどう思うか。

【新部委員】

- ・子どもが出て行かないとか、出て行くとかは家族の自由なので、それはどうしようもない。この会議の中で言ってもどうしようもない。子どもに東京に行くなと言えないし我々が頑張っても個人の自由なので、大学にも行くし。

【山岸会長】

- ・その話の流れだと何もしないで良いということになるが。

【新部委員】

- ・ただ協議会で提案する目的が子どもが出ることを何とか防ぎたいと言ってもできるか。

【斉藤委員】

- ・新部委員に伺う。若者の移住定住につながる具体的な案としてどんなことをお考えか。

【新部委員】

- ・具体的な案と言うのは難しいが、結局魅力のある地域なら人が集まる。

【齊藤委員】

- ・それを具体的にやって行くために繋げて行こうという、まだ全然その位置にも着いていないと思う。そこで、それを言われてしまうと。

【新部委員】

- ・出る人が少なくなるということは、出ても戻ってくる人がいるとか。

【山岸会長】

- ・これは、私たちがどうのこうのという問題ではないというのは百も承知だ。吉川区は頸北4区の中でも極端な人口減少をしている。それを止めろということを行っているわけではない。皆さんが言うように魅力づくりをどうしたら良いかを含めて、実際若い人たちが何を望んでいるか、どういうことを考えているのかを我々は把握すべきだ。そういう機会を作ったらどうかということを言っている訳であって、止めるとか出るななどという事ではない。現状をまず把握すべきではないかと思っている。それぞれ皆さんは町内会の役とか各団体の役をしているので、ある程度は把握しているので、今こうして振って皆さんに聞いたが、まず現に子育て世代とか、子どもたちとかが何を考えているのか、或いは独身でまだ吉川にいるが世帯を持ったら吉川を出たいと考えている人も含めて意見を伺ったらどうかと私は考えた。いかがか、それは意味がないか。

【新部委員】

- ・その話は賛成である。そういうのは当事者に聞かないとわからない。我々が想像してもどうしようもない話である。子どもがどういうことを望んでいるのか、若い人がどういうことをすれば楽しめると思っているのかというのは良いと思う。最終的な目標が出る人が少なくできるかと言うと、それはなかなか難しいかもしれない。きっかけとしては魅力ある地域づくりのために今我々が何を提案すれば良いのかを考えれば良いと思う。最終的な目標がどこに行くかと言うと出る人が少なくなっ
て人口減少に歯止めがきくのが理想である。

【山岸会長】

- ・例えば意見交換した時にここをこうしてもらえばと言うようなことを我々の協議の中で市行政とやり取りできるような部分があったとしたら私らはそれを上につなぐ立場ではないかと思う。色々な意味での魅力づくりは、色々なやり方がある。私達ができることがあれば、そういう声を出していく。何もならないかもしれないが、我々地域協議会は地域の意見を取りまとめて行政につないで行く立場である。自分

の意見も大事であるし、現役の人たちが何を考えているかというのを把握すべきであるし、それについて賛成してもらったので進めて良いか。ただ、我々が直接声を出しても集まるということがなかなか厳しいと思うので関係各所に調整してもらう形で投げてみたいと思う。そんなことで前に進めて良いか。

【斉藤委員】

- ・賛成である。小学生、中学生の各保護者がこういう場に来て意見何かあるかと言ってもという所があるのでこちらから出向くということで、全員ではなく私など в籍している協議会委員が出向けば良いのかと思う。そこでどういう話が出てくかはわからないが吸い上げるだけ吸い上げてきたいと思っている。

【山岸委員】

- ・斉藤委員からそういう意見を出していただくのはありがたい。ただ、全体で聞くこともできればしたい。なかなかスケジュール的に難しいということになれば、お願いするということになるかもしれないが、できれば都合のつく人で同席させてもらいたい。まず聞くことが第一である。そんなことで進めさせていただきたい。

【橋爪委員】

- ・もし、子どもを入れての会合だとすると、子どもに難しい質問してもなかなか難しいと思う。「あなたは町長になったら何をしたいか」とか「国会議員になったら何をしたいか」と言う質問の方が面白いらしい。夢がある話が出るらしい。それが吉川でできるかどうかは別として、そういう方が面白いのではという提案である。

【山岸会長】

- ・そういうようなことが可能であれば、こういう向きでどうかというアイデアをいただきたい。とりあえず学校とか保護者と繋ぎを取ってみてそういうのが可能かどうかを探りたい。
- ・そういうことで自主的審議事項を閉じたい。それでは(3)その他について委員の中で「こういうのがるかどうか」というのがあれば願います。

【山岸会長】

- ・5その他に移る。委員から何かあるか。

【上野委員】

(吉川中学区の PTA の解散について報告)

(吉川中学区の一斉下校に伴うスクールバスの送迎時間の問題について報告)

【山岸会長】

- ・他にないか。

【大滝委員】

(新酒と料理を楽しむ会の案内)

【橋爪委員】

(健口講座の案内)

【山岸会長】

- ・他にないか。

(頸北4区地域協議会正副会長会議の開催について報告)

- ・総合事務所から何かないか。

【山本次長】

(通行止めのお知らせ)

【熊本副主幹】

(地域協議会だよりの発行について)

【山岸会長】

- ・他にないか。なければ次回の地域協議会の日程について確認する。3月27日、木曜、午後6時30分からで良いか。

(異議なし)

- ・最後に閉会の挨拶を薄波副会長にお願いする。

【薄波副会長】

- ・以上で第9回吉川区地域協議会を閉会とする。

10 問合せ先

吉川区総合事務所 総務・地域振興グループ

TEL : 025-548-2311 (内線 213)

E-mail : yoshikawa-ku@city.joetsu.lg.jp

11 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。